

II. 事業の概要

法人本部

1. 理事会、評議員会の開催状況

- (1) 理事会開催回数 4回 令和5年(2023年)3月～令和6年(2024年)年5月
(2) 評議員会開催回数 4回 令和5年(2023年)3月～令和6年(2024年)年5月

2. 監事による監査状況

- (1) 監事 矢野 範子 氏、 島岡 雅之 氏

(2) 監査状況

理事会等に出席する他、関係書類閲覧等及び期中・期末監査を実施

〔会計監査〕 期中、期末

会計監査人(独立監査人)との連携協議含む

〔業務監査〕 期中、期末

理事長及び法人本部長等との面談による現況聴取及び法人が設置する学校現場での実地監査を実施(ユマニテク短期大学、名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校、名古屋ユマニテク調理製菓専門学校の校長・事務長等からの面談による現況聴取、協議、校舎内視察等)

〔監査報告書提出〕 令和6年5月24日

3. 私立学校振興助成法に基づく会計監査人(独立監査人)による監査状況

- (1) 監査契約 受嘱者 公認会計士 佐久間紀事務所 公認会計士 佐久間 紀 氏
公認会計士 久留美輝晃事務所 公認会計士 久留美 輝晃 氏
(2) 上記委託審査担当員 公認会計士 伊藤 堯夫 氏
(3) 監査報告書提出時期 令和6年6月
(4) 監事との連携 期中、期末

4. 重要事項等

(1) ユマニテク短期大学

平成29年4月に開学したユマニテク短期大学は平成30年度に完成年度を迎えた後も、文部科学省による「設置計画履行状況等調査」及び「大学等設置に係る寄附行為(変更)認可後の財務状況及び施設等整備状況調査における意見に係る報告書」の提出を求められ、文書にて前述の調査を提出しました。令和3年度は、改めてWEB面接調査が実施されることとなり、事前に面接調査用の報告書を提出した上で、令和4年1月14日に大学設置・学校法人審議会(大学設置分科会)による面接調査が実施されました。その結果は令和4年3月25日に本学へ通知(文部科学省のホームページにも掲載)され、初めて指摘事項が付されませんでした。

また、令和5年度は設置認可後7年以内に受審が必要な「一般財団法人 大学・短期大学基準協会」による「認証評価」を受審し、書面調査、訪問調査を経て令和6年3月8日付で「適格」と認められました。

特に優れた試みと評価をされた点として、①建学の精神②学生支援③学長のリーダーシップがあり、

向上・充実のための課題としては、財的資源(定員充足率の向上)についての提言を受けました。それらの評価を基に、今後も安定した学校運営を行うため、学内の整備を行い、引き続き定員充足に向けて取り組んでまいります。

(2) 県知事所轄の専修学校 (名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校、名古屋ユマニテク調理製菓専門学校)

平成31年4月に改編した専修学校においては、名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校の歯科衛生学科で令和3年度に定員増の完成年度を迎え、全学年が3クラス編成となり3年が経過しました。360名近くの学生が在籍する中、施設の稼働方法を工夫しながら、より多くの歯科衛生士を地域社会に送り出せるよう教育活動に専念してまいります。

また、歯科衛生専門学校と同時期に改編した名古屋ユマニテク調理製菓専門学校では、5年目を迎えた調理師専科にて、初めて入学定員である40名の入学者を達成し、製菓製パン本科においても定員以上の89名の入学者を確保でき、当初想定していた学校運営に近づいてきました。こちらも東西校舎における施設の稼働方法を工夫し、対応して参ります。両学科ともに入学者全員が資格を持って卒業できるように引き続き教育活動の充実を図ります。

高等課程の総合学科についても男女共学化して5年が経過し、年々男子生徒の入学生も増加してきました。生徒募集についても3年続けて入学者の定員充足を達成し、学科総定員240名に対して255名の在籍者を確保することができました。現在の施設を最大活用し、生徒の成長を促しながらきめ細やかな指導をしていきたいと考えます。また、上級学校への内部進学もさらに促進をしていきたいと考えております。

なお、令和3年6月に取得した名古屋市西区牛島町の土地を有効活用するため、名古屋地区に新規事業計画を立案中です。今後、現設置校の設置学科の拡充を中心に事業計画の協議を進めて参ります。

令和5年度には、各校において教育関連備品の追加、実習機器、空調・給水設備等の修繕を行い、名古屋校ではネットワーク関連工事、パソコンやプロジェクターの追加、iPad等の情報通信機器を活用する授業に向けた教員用端末の整備を行いました。

事業報告にあたって

令和 5 年度は以下の 4 点が主な報告事項である。

- ①短期大学基準協会による認証評価受審。評価基準を満たし、「適格」であると認定された。
- ②教育理念実現のための教員人事構想の実現。結果として新規に 3 名の教員を採用できた。
- ③高等教育機関として、教育の質の向上のための協同学習の実現。
- ④学生募集の結果。

①今年度は創立 7 年を迎え、一般社団法人大学・短期大学基準協会による認証評価の受審の年となった。学科長を ALO、事務長を ALO 補佐として、受審のために自己点検評価委員会を中心に全教職員でこれまでの 6 年間の教育活動のすべてを振り返り、令和 5 年度 6 月には資料、自己点検報告書を教職員全員で完成させることが出来た。これまでの教育活動の質を振り返り、課題を発見することが出来た。また、認証評価の受審をするために関係する本部職員はもとより、短大教職員全員のチームビルディングが出来たのも大きな成果であった。認証評価の結果としては学生募集の課題は残るものの、特に優れた取り組みとして、学生指導におけるゼロ対応などの学生支援、入学前教育、多様なイベント実施による地域貢献、学長のリーダーシップなどが評価され、適格認定を得ることが出来た。

②令和 5 年度は前年度に引き続き、教育理念実現に向けた教員人事構想を練り上げ、新たに 3 名の教員採用をすることが出来た。幼児保育学科の核となる教科である、保育原理担当の教授 1 名。心理学専門教員の准教授 1 名、保育士経験を有する実務家教員である講師 1 名を採用することが出来た。幼児保育学科として内外に誇れる教員の陣容となった。

③高等教育機関として、教育の質の向上のために協同学習の実現に向けて、昨年に引き続き、専任教員を中心に対話的で協同的な学びを実現する授業実践が展開された。講義型授業においても短時間のグループワークを行い、また、リフレクションシートを活用し、学修定着を図った。今年度は東海学園大学教授・水野正朗氏(日本協同教育学会理事)を招き、大学における協同学習に関する研修を行い、更に充実したものにすることが出来た。

④学生募集については目標の 80 名に対して、現役高校生の入学予定者が 45 名という厳しい数字となり、委託訓練生の入学者 8 名を加えて入学生は計 53 名となった。特に委託訓練生の 15 名枠を最大限に活用することができなかったことが大きなマイナスであった。入試広報については、原点に戻り、こまめな高校訪問、高大連携事業を行ってきた。今後は生徒数の減少傾向にある中で、SNS 等の活用を通して、一般の高校生の募集強化はもちろんのこと、社会人対象の「学び直し」いわゆるリカレント教育をさらに積極的に進めていきたい。

その他、今年度の 3 月 12 日には令和 6 年度の新任教員も含めての教職員全体会を新任教員のオリエンテーションの意味も含めて、終日実施した。学生指導における基本的な姿勢から、委員会等での教職員の役割まで、詳細に打ち合わせを行うことが出来、きわめて効果的であった(以下の参考資料を参照)。

【参考資料】※3月12日教職員全体会での指針

本学の使命は、建学の精神である「地域を支える次世代を社会へ送り出す」を基盤に教育理念である「豊かな人間性と確かな技術」を兼備した保育者を育てるということです。本学の教育をより発展、充実させるため先生方へ以下の3点を確認したい。

(1) 対話の文化のある短大を目指して

本学では「コミュニケーション能力を有する専門職の育成」を掲げております。それには何よりもまず、私たち教職員どうしの対話、学生との対話、また、学生同士の対話を通して、コミュニケーション能力を有した保育者を育てたいと願っております。デジタル社会にあつて、組織運営上では報・連・相などもメールのやりとりで済ませなくてはならないことが往々にしてあります。しかし、メールの文章だけでは真意は伝わらないことも多く、また、誤解を生みやすいのも事実です。特にこれらと思う問題に対しては、まずは当事者同士の直接対話が解決の最良の方法であると考えております。

何かあつたら、直接、顔を見て対話する、相談するという姿勢でお願いしたいと思ひます。対話は質問と傾聴により成り立ちます。特に学生支援については「質問に関わること」によって本人の思考力・判断力・表現力等を育成することにもなります。「対話の文化」を醸成するユマニテク短期大学を合言葉にお願いします。

(2) 主体性・多様性・協働性を育む協同学習について

各先生方におかれましては、保育現場で必要な知識や技術の伝達と「自助・共助」の人間性の開発を中心とした授業展開にご尽力いただいておりますことに、感謝申し上げます。

本学では協同学習の考え方(※)を基軸として授業展開をしていきたいと望んでおります。平成24年の「質的転換答申」を引くまでもなく、社会人として必要なコミュニケーション能力や協働的な働き方など非認知能力を開発するためには協働的な学びが欠かせません。そのためにここ数年来、FD・SD研修においても協同学習をテーマに授業改善のヒントを得ています。これからも協同学習の技法を積極的に取り入れたいと考えております。講義科目、実習・演習科目を問わず、協同学習の技法(学修目標の設定、個人思考、集団思考、再度の個人思考によるリフレクションなど)をご活用いただきたいと思います。一方的な講義をただひたすら聞いて終わりという授業ではなく、短時間でもテーマに基づいた学生同士の意見交換や振り返りの時間を設定していただければと思ひます。本学には様々な個性ある学生が集っております。そのような集団において、相互尊敬、相互信頼の関係性の中で学び合い、切磋琢磨できる学習集団を形成していきたいと思ひます。主体性を持って多様な人と協働できる態度は実社会において最も不可欠なものです。そのような資質・能力を協同学習の技法を活用しながら、養成していきたいと心から願っております。※『協同学習の技法—大学教育の手引き』(ナカニシヤ出版)等をご参照ください。

(3) 互いの研究・教育実践から学び続ける教職員集団として

令和2年の学習指導要領改訂に伴い、教育方法が大きく変わろうとしています。本学に於いても、新しい時代に即した教育改革を進めていきます。高等教育機関において教育と研究の両輪があつてこそ、教育の質の向上が担保されます。そのために本年度は先生方が日々、研究しておられる内容を他の教職員にも共有できる場を持つことを計画しています。貴重な学びの機会になると捉えています。ぜひともご協力くださいますようお願いいたします。

I. 基本方針について

1. 教育方針

建学の精神「地域を支える次世代を社会に送り出す」

教育理念「豊かな人間性と確かな技術」

めざす人物像「豊かな人間性」「確かな技術」を身につけていること

2. 教育目標

① 乳幼児期における専門的教育力・保育力を持った実践的指導力を有する専門職の養成

② コミュニケーション能力を有する専門職の養成

③ 地域のニーズを理解し、地域に根差す能力を有する専門職の養成

3. 主な教育・研究の概要

(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー／求める人物像）

本学は、建学の精神に定める人材を育成するために、本学での学修に対する目的や意欲をもち、高等学校までの学習及び経験を通じて基礎的な知識を修得し、身近な問題について自ら考え、その結果を表現できる力を身につけて入学してくるよう、下記のことを求めます。

このような入学者を適正に選抜するために、多様な選抜方法を実施します。

◎高等学校の教育課程を幅広く修得している。

◎自らの意思を明確に表現し、他者との円滑なコミュニケーションを図ることができる。

◎学びたい学科で学修した知識・技能や態度を、地域社会で活かそうと考え、将来、保育者として従事したいという強靱な目的意識を持っている。

◎自ら主体的に課題設定が可能で、その課題に前向きかつ持続的に取り組んでいこうという意欲を入学前から持っている。

◎高等学校までに、部活動、ボランティア活動、資格・検定の取得等に、積極的に取組んだ経験がある。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

○教養科目

「地域を支える次世代を社会に送り出す」という建学の精神を深めるための科目や、自らの人間性を深めたい世界観を広げたりできるように科目を設置しています。

1. 人間性や職業観に関する科目

「心理学」「キャリアデザイン」等

2. 言語や情報に関する科目

「外国語コミュニケーション」「情報処理」等

3. 健康と保健体育に関する科目

「人間と健康」「スポーツ・レクリエーション実技」

○専門教育科目

教育理念である「豊かな人間性と確かな技術」を体現する者として、自ら考え、主体的に行動できる保育者を育成する為、理論と実践をバランス良く学ぶことができるように以下の科目を設置しています。

1. 保育や幼児教育の目的や子どもを取り巻く社会の現状について学ぶ科目
「保育内容総論」「子ども家庭福祉」等
2. 保育や幼児教育の対象となる子どもと家族について理解を深める科目
「子ども家庭支援論」「障がい児保育」等
3. 保育や幼児教育を実践するための方法や技術を修得する科目
「保育指導法」「教育相談」等
4. 保育や幼児教育をめぐる諸問題について倫理的に考え表現する方法を修得する科目
「保育・教職実践演習」「ゼミナール」等
5. 保育や幼児教育について現場で他者とコミュニケーションをとりながら実践的に学ぶ科目
「保育実習」「幼稚園教育実習」等

(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

現場に即した保育者になるため、教育課程（教養科目および専門教育科目）の学修を通して科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与します。

卒業認定の際に獲得していることを求める学修成果は次のとおりです。

1. 乳幼児期の子どもに対する実践的指導者としての確かな知識及び技術を修得し、変化する状況にも主体的かつ柔軟に対応することができる。
2. 子どもや家族・地域社会の人々とのコミュニケーションを図るために必要な知識及び技術を修得している。
3. 子どもや家族、地域社会をめぐるニーズや諸課題に対して、自分なりの考えをもち、それを表現し、その課題解決のために積極的に行動することができる。

II. 令和5年度 事業報告

1. 学校運営と教育活動の取り組み

(1) 設置学科の概要

令和6年3月31日現在

学 科 名	幼児保育学科		
学 年	1 年	2 年	合計
定 員	100 名	100 名	200 名
「5/1」時点 学生数 (A)	53 名	67 名	120 名
(内) 内部進学者数	11 名	15 名	26 名
(内) 留学生数	0 名	0 名	0 名
(内) 原級留置者数	0 名	0 名	0 名
(内) 休学者数	0 名	0 名	0 名
「3/31」時点 学生数 (B)	50 名	65 名	115 名
(内) 内部進学者数	10 名	13 名	23 名
(内) 留学生数	0 名	0 名	0 名
(内) 原級留置者数	0 名	0 名	0 名
(内) 休学者数	1 名	0 名	1 名
差 異 (A) - (B)	3 名	2 名	5 名
退学者数 (4/1～3/31)	3 名	2 名	5 名

(2) 令和5年度卒業生の状況

就業者状況

学科名	専門分野 就業者(予定)	専門分野外 就業者	内部(D) 進学者数	他、 進学者数	その他 (未就職)	備考
幼児保育学科 (C)	59名 (90.8%)	3名	2名	0名	0名	1名原級留置
(内)内部進学者	10名 —	0名	1名	0名	0名	
(内)留学生数	0名 —	0名	0名	0名	0名	
合計 (C)	62名 (95.4%)	3名	2名	0名	0名	卒業生 64名

※ (D) の「内部進学者数」は2名とも本学の科目等履修生として。

(3) 学生募集活動・取組

①数値目標

幼児保育学科	令和5年度実績	令和5年度目標
オープンキャンパス動員数	214名	160名
(内)内部進学者	30名	30名
(内)留学生数	0名	0名
受験者数	58名	90名
(内)内部進学者	10名	15名
(内)留学生数	0名	0名
入学者数 (※)	53名	80名
(内)内部進学者	9名	15名
(内)留学生数	0名	0名

※入学者数は委託訓練生8名を含む

②募集の計画・取組報告

・学生募集活動計画数値目標・取り組み結果

令和6年度生を迎えるための学生募集活動を、3月から入試広報委員会を中心に行った。毎月、全12回開催し、その決定に基づき高校訪問、校内・会場ガイダンス、オープンキャンパス、その他学生募集に尽力した。各活動詳細については以下の通り。

・募集活動について

○ 結果

入試区分別では53名の入学者中、総合型選抜31名（Ⅰ期26名、Ⅱ期4名、Ⅲ期1名）、学校推薦型選抜7名（指定校7名、公募0名、スポーツ0名）、内部推薦進学5名、社会人選抜2名、委託訓練生8名であった。

・地域別入学者数は下記【表1】の通りとなった。

・男女別では男子7名（13%）、女子46名（86%）であった。

53名の入学者中、新規高校卒業生は40名、既卒者は13名という結果であった。

・奨学金・スポーツ奨励金該当者、本学独自の奨学金制度該当者は【表2】の通りとなった。

*内部進学推薦入試で受験、入学した5名は、入学金280,000円と検定料30,000円の減免制度に該当。その他の内部進学生4名は入学金280,000円の減免制度に該当

【表 1】

地域	市郡	入学者数
北勢	桑名、員弁、四日市、菰野、朝日町	23
中勢	鈴鹿、津、松阪、多気	13
南勢	渡会	1
伊賀	伊賀	1
東紀州	熊野、御浜	2
県外	愛知、長野	7
合計		53

【表 2】

入試別	奨学金種別	総合型選抜奨学金	学内進学奨学金	特別奨学金	スポーツ奨励金	遠隔地奨学金	特待生奨学金
		280,000 円	280,000 円	280,000 円	200,000 円/100,000 円	600,000 円	200,000 円
総合型選抜		2	3	0	2/1	1	1
学校推薦型		0	10	0	1/1	0	1
社会人		0	0	0	0	0	0
一般		0	0	0	0	0	0
合計 (人)		2	13	0	5 (3/2)	1	2

○ オープンキャンパス

【表 3】

開催日	イベント名	出席数	2024 年進学予定者
2023/3/18	3/18AM オープンキャンパス	30	21
2023/3/22~3/29	春個別相談会	2	2
2023/5/3~5/5	GW 個別相談会	3	3
2023/5/21	5/21AM オープンキャンパス	21	16
2023/5/21	5/21PM オープンキャンパス	21	16
2023/6/4	6/4 オープンキャンパス	24	24
2023/7/8	7/8AM オープンキャンパス	28	7
2023/7/8	7/8PM オープンキャンパス	9	9
2023/7/9	7/9 オープンキャンパス	24	15
2023/7/25	高校生のインターンシップ	32	23
2023/8/6	8/6AM オープンキャンパス	16	11
2023/8/6	8/6PM オープンキャンパス	10	2
2023/8/11	8/11 オープンキャンパス	8	5
2023/8/26	8/26AM オープンキャンパス	37	17
2023/8/26	8/26PM オープンキャンパス	14	13
2023/10/07	個別相談	5	4

2023/11/11	学園祭型オープンキャンパス	62	22
2023/12/16	個別相談	7	4
合計		353	214

(延べ数)

オープンキャンパス・個別相談会を【表3】の通り行った。昨年同様午前と午後の2回転での実施となった。令和5年度は「目的別オープンキャンパス」として、短い時間に全てを盛り込む形から、「体験授業型」「学校紹介型」「入試型」などと、各回における「やること」を明確化し、広報及び実施をした。結果として、学校の内容が深く伝わったことがアンケートから確認できた。

また、令和5年度版として更新した広報用資料は、使い勝手が良く、OCおよびガイダンスで統一感のある説明を行うことに繋がった。

令和5年度の反省点としては、新規動員が少なかったことが上げられる。リピート数は多いため友人を連れてくるという動きの強化を図りたい。また18歳人口が最も減少した年であったことも原因の一つであると言える。また、三重県全日制高校の志願者数は2015年から9年連続で減少をしている。

その一方で、例年10名以上の内部進学者がいることで定員充足率向上に大きく寄与している。さらなる定員充足率向上に向けてこの動きを活発にさせていきたい。

人数を集められなかったことの大きな理由としては、①北勢・中勢地区の有力校（四日市農芸高校、稲生高校）からの志願者減 ②毎年の入試広報課員の交代・移動（ガイダンス担当者の変更） ③大学・専門学校志望の増加傾向（財政面や大学指定校推薦枠の増加） ④北勢地区の保育志望者減ではないかと考える。①は毎年入学者がいる学校からほとんど入学生が入らなかったことは大きな痛手である。特に高大連携協定を結んでいる四日市農芸高校からの進学者が0名であったことも大きい要因である。原因としては、上記②～④の他、カリキュラムに関する在学生からのネガティブイメージが伝わっている可能性も否めない。しかしながら、上記の要素はあるものの、本学での教職員間のコミュニケーションの強化、教職員一人一人が入試募集担当者であることの自覚をさらに高めていかなければ、この状況を打破できないと捉えている。

一方で、久居高校から継続して3年連続で出願があったことは評価したい。

保育短大志願者が減っていることは東海3県共通の課題認識であり、志願者を確保するための方法の取り組みとして、1つ目は四日市私立保育園連盟との共催で夏休みのインターンシップを開催し、実際に子ども達と触れ合える場の提供や保育現場を知る機会を作ることが出来た。

2つ目の取り組みとして、社会人募集の拡充を行った。令和4年度から専門職業訓練給付金制度の認定校となり、令和5年度入学生から補助を受けながら通える短期大学となった。また、文科省より「職業実践力育成プログラム」へ認定され、社会人経験を経た学生の学び直しができるサポート体制が整った。次年度以降徐々に効果が表れることを期待したい。

3つ目の取り組みとしては、学生支援委員会、学生会主体で大学祭の開催である。大学祭とオープンキャンパスを同日に実施し、高校へ広報することができた。そのことにより、秋冬時期に高校1～2年生、既卒・社会人を集客し、次年度募集へつなぐことができた。2～3年生の間に複数回のオープンキャンパスへ参加するという指導は近年行われておらず、学生の知っている範囲内や先生の知っている範囲内での進学指導となっているため、高校1～2年生に秋冬の期間に学校の良いイメージを感じて貰えたことは大きい。また、大学祭に向けて制作した保育志望者向け動画が好評で、ガイダンスや今後のOC等での利用が可能となった。

○ 会場・校内ガイダンス

令和5年度におけるガイダンス参加の結果を【表4】に示す。

総計694（2024/04/5集計）名が参加し、出願に繋がった。

3年生の参加者数は近年最多である。また1年生、2年生の総数も昨年に比べて増加した。

ガイダンスでの取り組みとしては、①積極的な動画の利用 ②分野説明の拡充 ③LINE等SNSへの誘導を行った。毎年話す内容に手ごたえを感じつつ、オープンキャンパスへ引き込む術を探している状態である。教員の協力もあり、一緒にガイダンスへ行き、授業内容の深いところまで話すことができている。

【表4】

	1年生	2年生	3年生
2023年度	283名	273名	138名
2022年度	219名	221名	125名
2021年度	357名	290名	109名
2020年度	474名	371名	97名
2019年度	451名	273名	84名

○ 高校訪問

進路の先生から高校生に対して薦めてもらえることが、まだまだ大きな進路決定の一助となっているため、高校訪問に関しては、丁寧に行っていく必要がある。その際に、学生の状況、学校が頑張っている取り組みについて話すことで、信頼を得ることができる。

しかしながら、いまだユマニテク短期大学を専門学校と認識している現役教員の反応を見受けられことがあった。基盤作りをおろそかにせず、我慢の募集活動が続くと予想される。

○ その他令和5年度取り組み

- ・令和6年度入学生の募集要項において、総合型選抜のエントリー課題、独自奨学金の再編成を行った。
- ・白子高等学校と高大連携協定を結んだ。令和6年度から高校3年生のコース選択授業へユマニテク短期大学教員がオムニバス形式で入り授業を行う。
- ・入学前教育と入試制度を組み合わせ、総合型選抜I期の合格者のみを対象とした特別入学前教育を行った。内容は個別のピアノレッスンとして、手厚いユマニテク短期大学のイメージを作ることができたと考える。令和5年度入試における総合型選抜I期の志願者は微増であった。

○ 令和5年度全体総括

オープンキャンパスの動員数に関して、新規動員が少なく来校促進の力を付けなければならない、18歳人口の最も少ない年度であったこと、東海三県の保育分野志願者の減少を受ける結果となった。しかし、ガイダンスにおいて、全学年の参加が今年度より増えていることは次年度に向けて良い兆しだと感じる。

前述した高大連携校から志願者がいないという事実には大いに目を向ける必要がある。進路の先生方からは、確かに保育分野志望者の減少は聞かれていたが、ガイダンスや学校見学には例年通りに参加している。在学生に多くの学生がいる分、どちらの意味でも学校の雰囲気は後輩たちに伝わりやすいと思われる。SNSや母校での評判に影響をもたらす可能性もあることは学校全体が軽視してはならないと

思う。学生生活の満足度が広報募集活動に繋がると信じている。

その一方で、今年度も大学祭を開催し、沢山の地域の方々に楽しんで貰えたことや、高校生や高校関係者の方々に活気のある短大をアピールできたことは非常に有益であったと感じる。

また、特別入学前教育での個別ピアノレッスンは、本学のカリキュラムや面倒見の良さをアピールできる取り組みとなり今後大きな武器となる。

高大連携協定では、連携協定先が増え、各高校と一層強い結びつきを深めるためにも、実際にどのように連携するかが鍵となる。そのためユマ短主導で出張授業や、懇談会を開くことができたことは大きな進歩である。高大連携協定先の高校を中心に展開していく募集活動は最重要である。

③入学前教育の計画および取組報告

日時	内容（担当者）
第1回 11月19日（土） 10：00～12：00	◎一足先にピアノレッスン（桂山先生・音楽非常勤講師）2h
第2回 12月16日（土） 13：00～16：00	◎すたーとあっぷノートの使い方（小澤先生・仲森先生）1h50m 事前学習の内容について確認しよう ◎ グループワーク入門（平松先生）1h
第3回 1月27日（土） 13：00～15：00	◎ 保育入門（田中先生）1h ◎ みんなで折り紙・くねくねへびを作ろう（小澤先生）1h
第4回 2月10日（土） 13：00～16：00	◎ ピアノ導入レッスン（桂山先生・音楽非常勤講師）1h×2 ◎ 障がいについて知ろう（仲森先生）1h×2
第5回 3月18日（月） 13：00～16：00	◎ 短期大学での学び方（鈴木学長）1h ◎ みんなで楽しむレクリエーション（徳増先生・中村先生・大矢先生）1h ◎ 奨学金説明会（矢野）40m

(4) 各種認定（指定）状況について

○高等教育の修学支援制度 ※認定を受けている学校（学科）のみ記載

《支援状況》（下記に学科別で詳細を明記）			
【入学金】			
<u>幼児保育学科：I区（満額）4名、II区（2/3）0名、III区（1/3）0名</u>			
合 計	4名	0名	0名
【前期学費】			
<u>幼児保育学科：I区（満額）19名、II区（2/3）4名、III区（1/3）3名</u>			
合 計	19名	4名	3名
【後期学費】			
<u>幼児保育学科：I区（満額）16名、II区（2/3）7名、III区（1/3）4名</u>			
合 計	16名	7名	4名

○専門実践教育訓練給付金制度 ※認定を受けている学校(学科)のみ記載

《指定年度・利用状況》(下記に学科別で詳細を明記)

幼児保育学科【指定年度：令和4年4月より】【利用状況(今年度):なし】

2. 目標達成計画及び重点課題の達成状況

(1) 数値目標結果

学生募集活動について、受験者数は58名(目標値は90名)と達成率は64.4%であった。入学者数については、合格者数(57名)から4名入学辞退があり、目標が80名に対して53名となった(66.3%)。

なお、就職面については、卒業生65名のうち、専門分野への就職59名、専門外分野への就職3名の計62名が就職決定となり(残り3名は科目等履修生2名、原級留置1名)、就職率は95.4%となった。

学生募集面では大きく課題を残したが、就職面では良い状況をキープしたと言える。

3. 教育活動の主たる取り組み

(1) 教育課程

①カリキュラムの編成状況

今年度より「社会学」を新たに本学の建学の精神を学ぶ科目として1年次に開講実施した。

3つのポリシーの改訂を行い、カリキュラム・ポリシーにおける「学修方法・学修過程の在り方」および「学修成果の評価の在り方」に関して、本学の教育理念を実現するために協同教育の理念に基づいた学修方法や協同の精神に基づいた学修内容を明記した。ディプロマポリシー実現のためのカリキュラムマップおよびナンバリングの改訂を行った。

②教育方法の工夫・開発・改善の取組状況

今年度から1年次入学生は全員ipadを購入していることから、ICT推進チームが手探りのなか、学生の情報機器環境の整備および授業への活用を促進した。

③実習・実技等の取組状況

学生の学習達成状況を鑑み、学外実習内規の見直しを行った。これにより、できる限り学生の状況に寄り添いながら、実習実施の見極めを行うことができた。実習担当者チームは結成2年目であり、今年度から新たなリーダーを迎えた。実習担当者と密な情報共有と学生および保護者への面談を常に心がけとても丁寧な実習指導体制が確立できた。

④企業連携教育の取組状況(連携企業数、連携教育内容)

地域との連携を深める取り組みとして、1年次必修科目「地域ボランティア実践」および2年次必修科目「専門ゼミナール」等において、地域の保育現場との連携を実施した。

あわせて、連携教育に関しては、同学園グループ校であるユマニテク看護助産専門学校助産専攻科、ユマニテク医療福祉大学校歯科衛生学科との連携授業を実施した。

⑤キャリア教育への取組状況

今年度は、キャリア支援室の常勤職員を2名体制として、学生の就職支援を強化した。

キャリア支援室室長による、現場担当者を招いた勉強会が開催され意欲の高い多くの学生が学ぶことができた。

⑥資格取得、検定試験合格等に関する指導体制の実績状況

卒業見込65名のうち、幼稚園教諭2種免許61名、保育士資格56名、レクリエーション・インストラクター資格14名、児童厚生2級指導員10名、准学校心理士2名、初級パラスポーツ指導員7名が資格取得をした。

⑦授業評価の実施・評価体制状況

全科目において学生による授業評価を実施した。その後、担当教員は評価への回答書を作成し、今後の授業に活かしていただきながら、授業評価結果および回答をもとに学科長面談を行い教員の教育力向上を実施した。

⑧職業教育に対する外部関係者からの評価状況

外部関係者からの評価として、監事往査および監査室による監査をととして評価を頂き改善に活かし、今年度は、本学の教育活動を内外へ広く周知することを目的に「ユマ短通信」を発行した。

⑨課外活動への取組状況

本学における課外活動は学生の主体性に委ねられており、学生支援委員会が主管となり課外活動に必要な環境を整えているものの、課外活動の機会は少ない。

・主な教育行事

<幼児保育学科>

入学式	4月1日(土)
非常勤講師懇談会	4月1日(土)
オリエンテーション	4月3日(月)
健康診断	4月22日(土)
保護者会	6月3日(土)
幼稚園教育実習Ⅱ(幼稚園)	6月5日(月)～6月24日(土)2週間
保育実習Ⅲ(児童館)	7月～五月雨式 10日間
保育実習Ⅰ(福祉施設)	①8月28日(月)～9月6日(水) ②9月7日(木)～9月16日(土)10日間
学外研修	9月19日(火)
避難訓練	9月26日(火)
保育実習Ⅱ(保育所)	10月16日(月)～10月28日(土)10日間
幼稚園教育実習Ⅰ(幼稚園)	10月23日(月)～10月28日(土)1週間
大学祭	11月11日(土)

保育実習Ⅰ（保育所）	2月13日（火）～2月24日（土）10日間
卒業式	3月22日（金）

（2）学生支援

①学習サポート・相談体制状況

学習については、1年次は基礎ゼミナール担当者、2年次は専門ゼミナール担当者が、履修状況や生活指導、就職等、あらゆる面で支援を実施した。ゼミナール担当者で抱えきれない案件は、学外の専門家にアドバイスを頂きながら対応した。

②退学者、休学者への対応状況

①と同様にゼミナール担当者が対応する。今年度も「学生指導におけるゼロ対応」（a.早期における丁寧な学生指導の徹底、b.学科会議における学生の情報共有の徹底、c.学生の個人ファイルによる情報共有の実施）を教職員が意識して対応をした結果、退学率 4.2%と昨年度の 5.6%を下回ることができた。

③就職支援状況（就職内定率）

求人票の管理・紹介、履歴書の指導は主にキャリア支援室が担っている。その結果、希望者すべてが進路決定しており、専門職としての就職率は高い（令和6年3月卒業生 93.8%）。

（3）学修成果と評価

①就職率向上のための取組状況

今年度はキャリア支援室の人員体制が変化したものの、専門職としての就職率を 90%以上にできたことは一定の評価がされても良いと考える。

なお、公務員の保育専門職の希望が少ない為、令和5年度は四日市市（1名）の合格者のみであった。

②退学者の低減（退学率、進級率、卒業率）のための取組状況

退学率 5%以下を目標に取り組んだ結果、4.2%と目標を達成することができた。しかしながら、高等学校までの学校生活において毎日登校し授業に出席すること、課題を期限内に提出することなど、教員の指導の負担は増える傾向にあった。それに対する対策を早急に検討していきたいと考えている。

以上

名古屋ユマニテク歯科衛生専門学校

校長 服部 正巳

事業報告にあたって

令和5年度は、まだまだ試行錯誤を繰り返してはいるものの、退学率の低減も図れ、国家試験も良い結果を出せたと感じています。学生募集に関しては、少子化、コロナ禍が収まった後の世の中の変化、大学進学へのハードルが下がっている事など、例年になく定員充足をさせる事に苦戦した年度でした。ただ、苦戦した事で、世の中が本校に求めるものは何なのかという事を改めて考えさせられきっかけになりました。

令和6年度は、時代の変化、世の中のニーズに対応出来るような学校作りを行い、学生募集においては早期に定員充足出来るように努めていきたいと思えます。

I. 基本方針について

1. 教育方針

- ① 歯科衛生をめぐる多様なニーズが期待されているなか、基礎科目を基盤として歯科口腔衛生に関する高度な専門知識と技術を習得させる教育を目指す。
- ② 社会の動向と時代の要請に対応出来る実践力と、人の心の痛みがわかる豊かな人間性と社会性を備えもつ医療人の育成を目指す。
- ③ 他の医療職種と連携して、地域における歯科保健医療の向上に貢献できる歯科衛生士の育成を目指す。

2. 教育目標

- ① 専門的知識と技術及び科学的な思考力を統合した実践力の育成
- ② 高い使命感と倫理観を持った人間性豊かな医療人の育成
- ③ 医療人としてのコミュニケーション能力の育成

3. 主な教育・研究の概要

(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー／求める人物像）

- ① 人や社会、医療に関心を持っている人
- ② 歯科衛生士を目指す上で入学前から高いモチベーションを備え、入学後にも探究心を持ち、主体的かつ柔軟な思考で取り組むことができる人

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

歯科衛生士学校養成所指定規則に基づき、体系的に学修できるよう基礎分野・専門基礎分野・専門分野・選択必須分野を中心として、講義・実習(学内・学外)科目の配置を行っている。

本校は「職業実践専門課程」の認定を受けており、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、企業等と連携して、実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行う。主体的な問題解決能力、人間・社会に対する理解やコミュニケーション能力を養えるように科目を配置している。

授業計画（シラバス）については、授業概要、授業終了時の到達目標、授業計画（毎回のテーマ及び内容）、評価方法、使用教科書・教材を記載しており、入学年度及び各進級年度に学生に配付し、積極的に活用するように指示している

(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

カリキュラムポリシーに沿って設定した全ての科目を修得し、学則及び卒業判定規程にある下記の卒業要件を満たしたものに専門士(医療専門士)を授与する。

- ・ 歯科衛生士業務を行うにふさわしい知識、技術及び人格を備えていること。
- ・ 本校の定める全ての授業科目、及び実習の出席率を満たしていること。
- ・ 授業料等学納金が完納されていること。
- ・ 卒業試験に合格していること。

II. 令和5年度 事業報告

1. 学校運営と教育活動の取り組み

(1) 設置学科の概要

令和6年3月31日現在

学 科 名	歯科衛生学科			
	1 年	2 年	3 年	合計
学 年				
学 級 数	3	3	3	9
定 員	120 名	120 名	120 名	360 名
「5/1」時点 学生数 (A)	125 名	110 名	113 名	348 名
(内) 内部進学者数	5 名	2 名	2 名	9 名
(内) 留学生数	0 名	0 名	0 名	0 名
(内) 原級留置者数	0 名	0 名	2 名	2 名
(内) 休学者数	0 名	0 名	0 名	0 名
「3/31」時点 学生数 (B)	115 名	110 名	113 名	338 名
(内) 内部進学者数	4 名	2 名	2 名	8 名
(内) 留学生数	0 名	0 名	0 名	0 名
(内) 原級留置者数	0 名	0 名	2 名	2 名
(内) 休学者数	0 名	1 名	0 名	1 名
差 異 (A) - (B)	10 名	0 名	0 名	10 名
退学者数 (4/1～3/31)	10 名	0 名	0 名	10 名

(2) 令和5年度卒業生の状況

国家試験状況

令和6年3月31日現在

学科名	卒業生	受験者数	国家試験合格者(見込)【全国平均合格率】	備考
歯科衛生学科 (C)	113名	113名	111名 (98.2%)【92.4%】	
(内)内部進学者	2名	2名	1名 —	
(内)留学生数	0名	0名	0名 —	
合計 (C)	113名	113名	111名 (98.2%)	

就業者状況

学科名	専門分野 就業者(予定)	専門分野外 就業者	内部 進学者数	他、 進学者数	その他 (未就職)	備考
歯科衛生学科 (D)	113名 (100.0%)	0名	0名	0名	0名	
(内)内部進学者	2名 —	0名	0名	0名	0名	
(内)留学生数	0名 —	0名	0名	0名	0名	
合計 (D)	113名 (100.0%)	0名	0名	0名	0名	卒業生 113名中

(3) 学生募集活動・取組

①数値目標

歯科衛生学科	令和5年度実績	令和5年度目標
オープンキャンパス動員数	400名	550名
(内)内部進学者	8名	4名
(内)留学生数	1名	0名
受験者数	130名	150名
(内)内部進学者	5名	4名
(内)留学生数	1名	0名
入学者数	110名	120名
(内)内部進学者	5名	4名
(内)留学生数	1名	0名

②募集の計画・取組報告

令和4年度生募集は2回の入試(10月、11月)で定員充足する事が出来ましたが、令和5年度生募集については6回の入試(10月～3月)で定員を満たすことが出来ず、追加入試を実施しました。学生募集が苦戦した理由として、少子化だけではなく、高校生を対象とした大企業から求人の増加、大学への進学が容易になった事などがあるかと思えます。競合他校も本校と同様に学生募集が苦戦しております。これまで、歯科衛生士希望者をどれだけ本校へ志望してもらえるかという観点で広報・募集を行ってきました。令和6年度からは高校生に対して歯科衛生士という職業を志望してもらえるように掘り起こしを行い、歯科衛生士希望を増やしたうえで、出願まで導くような広報募集を行っていきます。

また募集が苦戦する状況は、入学生の質の低下を招いてしまい、退学率にも影響を及ぼします。令和6年度生募集は、早期に定員充足出来るように励んでいきたいと思えます。

③入学前教育の計画および取組報告

令和5年度生は入学前教育については、例年からの引き続き歯科医院からの寄付金を原資に、株式会社進研アド実施の入学前プログラムを全員に受講いただきました。

今後も、入学後スムーズに学習に入っていくための入学前プログラムを全員に受講させることで、学生の基礎学力向上、学生の課題点を早く見つけられ早期の指導ができるため退学率低減に繋げていきます。

(4) 各種認定（指定）状況について

○高等教育の修学支援制度 ※認定を受けている学校（学科）のみ記載

《支援状況》（下記に学科別で詳細を明記）			
【入学金】			
歯科衛生学科：Ⅰ区（満額）10名、Ⅱ区（2/3）2名、Ⅲ区（1/3）4名			
合 計	10名	2名	4名
【前期学費】			
歯科衛生学科：Ⅰ区（満額）26名、Ⅱ区（2/3）6名、Ⅲ区（1/3）5名			
合 計	26名	6名	5名
【後期学費】			
歯科衛生学科：Ⅰ区（満額）29名、Ⅱ区（2/3）3名、Ⅲ区（1/3）4名			
合 計	29名	3名	4名

○専門実践教育訓練給付金制度 ※認定を受けている学校（学科）のみ記載

《指定年度・利用状況》（下記に学科別で詳細を明記）	
歯科衛生学科【指定年度：令和2年10月より】	
【利用状況(今年度):45名(3年次18名・2年次14名・1年次13名)】	

2. 目標達成計画及び重点課題の達成状況

(1) 数値目標結果

国家試験 合格率 100%

1、2年生から基礎知識と国家試験相当問題を取り組ませ、解き方の方法を定着させる。3年生春からは国家試験対策として、模擬試験を計8回、学内確認試験を1月からは1週間に2回を繰り返し行いました。学習低迷者は個々の学生の短期目標を設け、担任による面談を繰り返し行う。個別指導、学生間のグループワーク等を繰り返し、学生意識の強化と成績アップを図る、など徹底した指導を行いましたが、2名合格点に到達せず98.2%という結果になりました。

退学率 5%以下

令和4年度から令和5年度の退学率は1年生9.9%から8.0%、2年生2.6%から0%、3年生1.7%から0%で全体では4.8%から2.9%という結果になり、退学率5%以下という目標を達成できました。1年生の退学率低減は、担任による学習不良者への早期対応の結果だと思えます。引き続き、退学率

低減を目指していきたいと思います。

入学定員充足 100%

令和6年度生は、少子化やコロナ禍が収まり社会が通常に戻るなど外的要因も強く、学生募集が苦戦しました。120名の入学定員のところ110名という結果になり、入学定員充足率は91.7%になりました。令和7年度生募集は定員充足出来るように募集活動を見直し、実行していきたいと思います。

3. 教育活動の主たる取り組み

(1) 教育課程

・カリキュラムの編成状況

歯科衛生士学校養成所指定規則に基づき、体系的に学修できるよう講義・実習(学内・学外)科目の配置を行っておりますが、国家試験の出題基準が令和4年に改訂された為、今年度の多くの教本は歯科衛生学シリーズに改訂され、シラバスの内容を各講師に追加や変更頂きました。段階的に時間数や科目の今後の見直しが次年度以降も必要と考えます。

・教育方法の工夫・開発・改善の取組状況

授業計画となる「SYLLABUS」の学生への提示内容は、授業概要、授業終了時の到達目標、授業計画(毎回のテーマ及び内容)、評価方法、使用教科書・教材を記載しており、例年同様配布及び学生アプリへも情報を発信しました。アプリ等を活用して各学年授業アンケートも実施しました。幾つかのツールを学生は積極的に活用することが出来、学習方法の選択肢が増えたと考えます。

今年度はおおそ学内授業は対面実施としましたが、臨地実習(高齢者施設)は受け入れが難しく代替演習での実施となりました。技能科目については、動画(手技手順、モデリング演習)を作成し配信を行ったり、シミュレーターを活用した実習を幅広く実施するなど努めました。

・実習・実技等の取組状況

学内実習・実技については、各単元の到達目標・行動目標を学生に明示し、事前学習・授業・振り返りを学生が能動的に思考し、技術習得の向上を目指して来ました。項目ごとのチェック習得表を活用し、教員や他の学生からの他者評価と自己評価を照らし合わせ、技能の向上を支援してきました。

また、授業内テストも実施し、アプリを活用して授業内での迅速なフィードバックも行う等の取り組みも始め、更なる活用方法を検討していきたいと思います。

学外実習については、2年次秋期～冬期、3年次春期～秋期と実施しました。秋以降は、臨床実習担当教員を始め各担任教員が実習施設へ巡回を行うことで、実習指導者との連携や相談が密に行えたと考えます。評価やコメントを頂戴して各学生にフィードバック面談を行い、次回の実習課題、改善、目標を明示し次に繋がる指導を行いました。

・企業連携教育の取組状況(連携企業数、連携教育内容)

ボランティア活動として

6月; 歯の一日健康センター(中村区、昭和区) 学生参加

東海市「お口と体の健康イベント」学生参加

10月; 口腔保健啓発事業「どうぶつブクブクフェア」学生参加

11月; 昭和区民祭り 学生参加

以上の活動に参加機会を頂き、各地域住民の方との関わりから多くの経験を得ることが出来ました。

・キャリア教育への取組状況

入学前の取り組みは、「入学前プログラム」学習の実施をしました。入学直後に基礎力リサーチテストの実施予告を行った為、プログラムの復習機会となり学習習慣定着に繋がったと思います。

3年生のライフデザインⅢでは、各分野の歯科医療現場の歯科医師、歯科衛生士などからの職能の特性、遣り甲斐、診療業務の現状についての授業は、卒業後のキャリアデザインの形成、更に就職活動に繋げる事が出来たと考えます。

・資格取得、検定試験合格等に関する指導体制の実績状況

初年度教育から基礎学習と並行して、国家試験に準じた問題も各科目取り入れて授業を行ってきました。春からは3年生へは国家試験対策として、新国家試験出題基準への対応の業者模擬試験を計10回実施しました。11月からは総合基礎講座で各講師からの対策授業を受け卒業試験に臨むことが出来たと思います。この時期からの成績低迷者の洗い出し、個別面談、学習指導や学生間のグループワークを強化したことで、全体の成績向上を図ることが最終的に出来ましたが、どの学生に対しても個々の現状を分析し、担当者が当たっていくことは容易では無かったと感じます。年々問題の難易度も高まり、模擬試験を繰り返しても学習成果が表れにくい学生が多くみられモチベーションの維持を継続させることが非常に難しく学生対応も苦慮しています。次年度へ向けて引き続き、課題感持って取り組んでいきたいと思ひます。

・授業評価の実施・評価体制状況

「学生授業評価アンケート」として、学年終了時にアプリ(MyÍd)を活用して実施します。結果の振り返りを学生へも公表し、次年度へ向けての意欲、目標が高まるように指導を続けていきたいと思ひます。

・職業教育に対する外部関係者からの評価状況

教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会にて、各委員より評価、意見を頂戴し、改善に取り組みました。

・課外活動への取組状況

各地域より、少しずつボランティア活動として学生参加依頼が来ました。

地域保健センター、市町村主催の地域イベント、企業主催の講話、職能団体主催のイベント等今年度は可能な限り、参加させて頂く事が出来ました。

・主な教育行事実施状況※

1年	入学式	4月5日(水)
	ガイダンス	4月6日(木)・4月7日(金)
	健康診断	4月17日(月)・18日(火)・19日(水)
	基礎力リサーチテスト	4月7日(金)
	学外研修(レクリエーション)前期	5月12日(金)
	学外研修(レクリエーション)後期	9月29日(金)

2年	ガイダンス	4月6日(木)
	健康診断①	4月10日(月)・11日(火)
	健康診断②	4月12日(水)・13日(木)
	臨床式	10月19日(木)
	学外研修(レクリエーション)前期	5月10日(水)
	学外研修(レクリエーション)後期	10月5日(木)
	臨床・臨地実習(第1期)	11月6日(月)～12月20日(水)
	臨床・臨地実習(第2期)	1月12日(金)～2月26日(月)
3年	ガイダンス	4月6日(木)
	健康診断	4月6日(木)・7日(金)
	臨床・臨地実習(第3期)	4月17日(月)～6月7日(水)
	臨床・臨地実習(第4期)	6月12日(月)～7月28日(金)
	臨床・臨地実習(第5期)	9月15日(金)～10月25日(水)
	学外研修(国家試験祈願)	11月7日(火)
	国試対策	11月～2月
	卒業式	3月6日(水)

(2) 学生支援

学習サポート・相談体制状況

入学後すぐに基礎学力リサーチテストを実施し、結果を数値化し早期に指導すべき学生の洗い出しを行い、学習面での支援を行いました。定期的な個別面談も早期に行い、学生からも気兼ね無く相談を申し出できる環境を整え、担任及び学年主任と連携し、学生の小さな変化へ早期に対応出来ました。

退学者、休学者への対応状況

退学意向となるまでは、本人含めご家族との状況の共有を図ることに努め、問題点の解決への思考で面談を繰り返しました。保護者への連絡で共有を図り協力を得られるよう努め、休学者に関しては、復学への相談に関わり、意向のある学生へは具体的な支援を行いました。

就職支援状況(就職内定率)

就職ガイダンス(学内・学外者)は、4月・7月・9月での実施を予定しており、県外及び遠方を希望する学生には、職業紹介業者への案内を行うなど、円滑に活動を行えるよう対応しました。

また、卒業生による就職ガイダンスを行いました。より卒業後のイメージを想起する機会となったと感じました。結果として、就職希望者は全員就職(就職率100%)することができました。なお、卒業後に就職希望へと移行する者もいるので卒後の者への対応も続けていきます。

(3) 学修成果と評価

○国家試験合格者数、就職率向上のための取組状況

1、2年生から基礎知識と国家試験相当問題を取り組ませ、解き方の方法を定着させ、3年生春からは国家試験対策として、模擬試験を計8回、学内確認試験を1月からは1週間に2回を繰り返し行いました。学習低迷者は個々の学生の短期目標を設け、担任による面談を繰り返し行い、個別指

導、学生間のグループワーク等を繰り返し、学生意識の強化と成績アップを図りました。

○退学者の低減（退学率、進級率、卒業率）のための取組状況

令和5年度の退学率は、全学年平均2.9%（1年生8.0% 2年次0% 3年次0%）となりました。

また、令和5年度の卒業率は90.4%となりました。

今後も、

- ・個々の学生について、入学前・入学後・卒業後へと変化の過程を見逃さず継続的にあたっていく。
- ・複数教員が在籍していることを活かし、担任教員のみならず他の教員へも関りが持てる環境づくり。
- ・教員間の情報の共有・連携の徹底を図る。（朝のミーティング時）

を引き続き、継続していきます。

以上

名古屋ユマニテク調理製菓専門学校

校長 星野 正純

事業報告にあたって

名古屋ユマニテク調理製菓専門学校として再スタートを切って丸5年、専門課程（調理師専科、製菓製パン本科）と高等課程（総合学科）の2課程を設置し、新しい組織の中で5年が過ぎ6年目を迎える。専門課程においては、強豪校の多いこの地区において東校舎・西校舎の2校舎に分かれての募集にもかかわらず、令和5年4月には製菓製パン本科が89名、調理師専科は40名の入学生が確保できた。高等課程においても、愛知県下15歳人口減少の中に高等専修学校が27校とひしめく中、男女共学、校名が調理製菓でありながら、総合学科での募集とやや難易度の高い環境ではあったが、総合学科の利点を中学生や保護者に強くアピールすることにより、定員を上回り101名の入学生を確保することができた。全学科の入学定員200名のところ230名と入学定員を大幅に上回りスタートを切った。在籍数も、再編成以前の平成30年度の304名から491名と187名の増加となった。再編成をし、校名を名古屋ユマニテク調理製菓専門学校としたことにより、専門課程の入学者がより明確になり、高等課程は高等課程＋専門課程の5か年教育に拍車をかけることとなり在籍数増加につながったものである。これも年度はじめに両課程の教職員を一同に集め、学校方針の周知、各自の自己目標を掲げることにより、各自の意識向上を図ることができた。

次年度に向けての募集活動も各科が協力しあい年度初めに掲げた入学定員の確保について、高等課程は99名、専門課程は104名と入学定員200名を辛うじてクリアすることができた。在籍数においても令和6年度は在籍定員480名を超え、494名を確保することができた。しかし、この少子化の中いつまでも学生生徒の増加は望めない。そのためには、今まで以上に内部進学数を増加させ、またドロップアウト数を減少させることにより在籍数を確保しなければならない。

私学人である我々は、教育はもちろんのこと、収支をも常に考慮したバランスのいい学校運営をしていくべきである。そのためには、年度初めに学校目標をしっかりと掲げそれに向かって今まで以上に全教職員が一丸となってことにあたり、より強靱な組織を作っていきたい。

I. 基本方針について

1. 教育方針

高等課程においては、専門課程・高等課程一体となった5か年教育、私立の高専を目指し、本校において生徒や保護者に安心感を与えることを第一義として、中学校・保護者・生徒にアピールする。それによって生徒や保護者から信頼される教育体制を構築させる。

専門課程においては、人間教育や技術の習得はもとより、国家資格の習得、就職先の確保という本来の姿を確立させる。

2. 教育目標

<高等課程 総合学科>

『ユマニテク』と命名された学校名そのままに「豊かな人間性と確かな技術」という教育理念そのままに専門職業人の育成を目指す。教育方針及び教育特色をしっかりと理解した上で、本校で自分の『夢（将来の目標）』を見つけて、それに近づこうと努力する強い意志と意欲を養う。

人物像としては、

- さわやかな笑顔、大きな声、きれいな姿勢
- 相手の気持ちがわかり、家庭の愛を感じることでできる人材

<専門課程 調理師専科>

- ① 基礎技術の鍛錬と幅広い知識の習得を目指す。
- ② 作ることの楽しさや食していただくことの喜びから、調理製菓のやり甲斐を伝える。
- ③ 調理製菓に対する姿勢を身につけさせ、現場に臨む心構えを持たせる。

<専門課程 製菓製パン本科>

「豊かな人間性と確かな技術」を兼ね備えた専門職業人（パティシエ、ブーランジェ、和菓子職人、カフェ店員等）を養成することを目的とする。

3. 主な教育・研究の概要

<高等課程 総合学科>

(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー／求める人物像）

教育方針及び教育特色をしっかりと理解した上で、その特色を活かし自分の『夢（将来の目標）』を探求し、その実現に近づこうと努力する強い意志と意欲を持たせると共に、同じ目的を共有する仲間と協調した学校生活を送ることのできる人物を育成する。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

総合学科として、基礎的学力の習得に必要な「一般教養領域」、豊かな感性と表現力を有した人間形成を促すための「人間形成領域」、社会的生活能力の基礎を身につけるための「総合教養領域」、自分の夢（目標）の実現に役立てるための「専門教養領域」の4つの柱をカリキュラム上にバランスよく編成し、各領域に適切な教員、教材、授業内容、評価を配置する。

(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

- ・本校教育方針に沿って、3年間を通じ自分の「夢」の探求と実現に努力を惜しまなかったこと。
- ・本校の定めるすべての授業科目に対し、規定に定まる出席率を満たしていること。
- ・本校の定めるすべての授業科目の成績評価が認定の要件を満たしていること。

<専門課程 調理師専科>

(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー／求める人物像）

- ① 本校の教育方針や教育内容を理解し、本校で学びたいという気持ちを持っている者。
- ② 学科の特性や目指す職業について探究し、学習の目的や意義が明確である者。
- ③ 目標達成の為に粘り強く努力し、最後までやり遂げようとする意志のある者。
- ④ 卒業後の進路や将来の目標についての考えを持ち、社会に貢献する意欲のある者。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

調理師法施行規則に基づき、体系的に学修できるよう講義、実習科目を配置する。

調理師専科においては、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、企業等と連携し、実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行う。

授業計画書（シラバス）については、授業概要、授業終了時の到達目標、毎回の授業テーマなどを記載しており、入学年度に学生に配付し積極的に活用するように指示している。

(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

カリキュラムポリシーに沿って設定した全ての科目を修得し、学則及び卒業判定規程にある下記の卒業要件を満たしたものに専門士を授与する。

- ・調理業務を行うにふさわしい知識、技術及び人格を備えていること。
- ・本校の定める全ての授業科目、及び実習の出席率を満たしていること。
- ・授業料等学納金が完納されていること。
- ・成績評価が認定要件を満たしていること。

< 専門課程 製菓製パン本科 >

(1) 入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー／求める人物像）

専門技術と知識を学び、社会性を身に付けていきたいと考える人。

「豊かな人間性」と「確かな技術」を身に付けるための基礎として、意欲や適性、将来の目標等を重視する。これらを捉えるために、選考における評価基準の主なものを以下にあげる。

- ① 本校の教育方針や教育内容を理解し、本校で学びたい気持ちがあるか。
- ② 希望学科に関係する職業を理解し、入学目的・身に付けたいことが明確であるか。
- ③ 目標達成のために、粘り強く努力し、やり遂げる気持ちがあるか。
- ④ 卒業後の進路、将来について考えているか。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）

製菓衛生師法施行規則に基づき、体系的に学修できるよう講義、実習科目を配置する。

製菓製パン本科においては「職業実践専門課程」の認定を受けており、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、企業等と連携し、実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行う。

授業計画書（シラバス）については、授業概要、授業終了時の到達目標、毎回の授業テーマなどを記載しており、入学年度に学生に配付し、積極的に活用するように指示している。

(3) 卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）

カリキュラムポリシーに沿って設定した全ての科目を修得し、学則及び卒業判定規程にある下記の卒業要件を満たしたものに専門士を授与する。

- ・製菓業務を行うにふさわしい知識、技術及び人格を備えていること。
- ・本校の定める全ての授業科目、及び実習の出席率を満たしていること。
- ・授業料等学納金が完納されていること。
- ・成績評価が認定要件を満たしていること。

Ⅱ. 令和5年度

事業報告

1. 学校運営と教育活動の取り組み

(1) 設置学科の概要

令和6年3月31日現在

学 科 名	総合学科			調理師専科		製菓製パン本科	
	1年	2年	3年	1年	2年	1年	2年
学 年	3	3	2	1	1	2	2
学 級 数	3	3	2	1	1	2	2
定 員	80名	80名	80名	40名	40名	80名	80名
「5/1」時点 学生数 (A)	101名	82名	72名	40名	38名	89名	69名
(内) 内部進学者数	0名	0名	0名	4名	12名	7名	3名
(内) 留学生数	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
(内) 原級留置者数	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
(内) 休学者数	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
「3/31」時点 学生数 (B)	98名	75名	68名	38名	38名	80名	68名
(内) 内部進学者数	0名	0名	0名	3名	12名	6名	3名
(内) 留学生数	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
(内) 原級留置者数	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
(内) 休学者数	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
差 異 (A) - (B)	3名	7名	4名	2名	0名	9名	1名
退学者数 (4/1~3/31)	3名	7名	4名	2名	0名	9名	1名

【高等課程（総合学科） 総計（集約）】

学 年	1年	2年	3年	合計
学 級 数	3	3	2	8
定 員	80名	80名	80名	240名
「5/1」時点 学生数 (A)	101名	82名	72名	255名
(内) 内部進学者数	0名	0名	0名	0名
(内) 留学生数	0名	0名	0名	0名
(内) 原級留置者数	0名	0名	0名	0名
(内) 休学者数	0名	0名	0名	0名
「3/31」時点 学生数 (B)	98名	75名	68名	241名
(内) 内部進学者数	0名	0名	0名	0名
(内) 留学生数	0名	0名	0名	0名
(内) 原級留置者数	0名	0名	0名	0名
(内) 休学者数	0名	0名	0名	0名
差 異 (A) - (B)	3名	7名	4名	14名
退学者数 (4/1~3/31)	3名	7名	4名	14名

【専門課程（調理師専科、製菓製パン本科） 総計（集約）】

学 年	1 年	2 年	合計
学 級 数	3	3	6
定 員	120 名	120 名	240 名
「5/1」時点 学生数 (A)	129 名	107 名	236 名
(内) 内部進学者数	11 名	15 名	26 名
(内) 留学生数	0 名	0 名	0 名
(内) 原級留置者数	0 名	0 名	0 名
(内) 休学者数	0 名	0 名	0 名
「3/31」時点 学生数 (B)	118 名	106 名	224 名
(内) 内部進学者数	8 名	15 名	23 名
(内) 留学生数	0 名	0 名	0 名
(内) 原級留置者数	0 名	0 名	0 名
(内) 休学者数	0 名	0 名	0 名
差 異 (A) - (B)	11 名	1 名	12 名
退学者数 (4/1~3/31)	11 名	1 名	12 名

(2) 令和 5 年度卒業生の状況

製菓衛生師試験の受験状況

令和 6 年 3 月 31 日現在

学 科 名	卒業生	受験者数	試験合格者(見込)【全国平均合格率】	備 考
調理師専科 (C)	38 名	38 名	35 名 (92.1%) 【70.9%】	合格率は愛知県
(内)内部進学者	12 名	12 名	10 名 —	
(内)留学生数	0 名	0 名	0 名 —	
製菓製パン本科 (D)	68 名	68 名	68 名 (100%) 【70.9%】	1 名合格後に退学
(内)内部進学者	3 名	3 名	3 名 —	合格率は愛知県
(内)留学生数	0 名	0 名	0 名 —	
合 計 (C)+(D)	106 名	106 名	103 名 (97.2%)	

就業者状況

学 科 名	専門分野 就業者	専門分野外 就業者	内部 進学者数	他、 進学者数	その他 (未就職)	備 考
総合学科 (E)	19 名 (82.6%)	0 名	25 名	20 名	4 名	卒業生 68 名中
(内)内部進学者	0 名 —	0 名	0 名	0 名	0 名	
(内)留学生数	0 名 —	0 名	0 名	0 名	0 名	
調理師専科 (F)	33 名 (89.2%)	0 名	0 名	1 名	4 名	卒業生 38 名中
(内)内部進学者	8 名 —	0 名	0 名	0 名	4 名	
(内)留学生数	0 名 —	0 名	0 名	0 名	0 名	
製菓製パン本科 (G)	66 名 (97.0%)	1 名	0 名	0 名	1 名	卒業生 68 名中
(内)内部進学者	3 名 —	0 名	0 名	0 名	0 名	
(内)留学生数	0 名 —	0 名	0 名	0 名	0 名	
合 計 (E)+(F)+(G)	118 名 (92.2%)	1 名	25 名	21 名	9 名	卒業生 174 名中

※総合学科は就職希望者 23 名、調理師専科は進学者を除く 37 名中として

(3) 学生募集活動・取組

①数値目標

総合学科	令和5年度実績	令和5年度目標
オープンキャンパス動員数	311名	420名
(内)内部進学者	0名	0名
(内)留学生数	0名	0名
受験者数	133名	120名
(内)内部進学者	0名	0名
(内)留学生数	0名	0名
入学者数	99名	90名
(内)内部進学者	0名	0名
(内)留学生数	0名	0名

調理師専科	令和5年度実績	令和5年度目標
オープンキャンパス動員数	170名	220名
(内)内部進学者	34名	30名
(内)留学生数	0名	0名
受験者数	38名	45名
(内)内部進学者	6名	6名
(内)留学生数	0名	0名
入学者数	38名	40名
(内)内部進学者	6名	6名
(内)留学生数	0名	0名

製菓製パン本科	令和5年度実績	令和5年度目標
オープンキャンパス動員数	687名	600名
(内)内部進学者	144名	50名
(内)留学生数	0名	0名
受験者数	66名	90名
(内)内部進学者	9名	10名
(内)留学生数	1名	0名
入学者数	66名	80名
(内)内部進学者	9名	10名
(内)留学生数	1名	0名

②募集の計画・取組報告

<総合学科>

体験入学では中学生 311 名(前年比+18 名)、保護者 215 名(前年比+78 名)の参加、入試説明会では 99 名(前年比+12 名)、保護者 93 名(前年比+20 名)の参加がありました。参加者増の要因は昨年よりも回数を 1 回増やし、全 7 回としたことが影響していますが、保護者参加率はそれを見越しても大きく増加しています。受験者数は推薦 60 名(前年比+6 名)、単願 37 名(前年比-4 名)、併願 36 名(前年比+13 名)、総計 133 名(前年比+15 名)と昨年より増加し、合格者は 120 名(不合格 13 名、単願 5 名、併願 8 名)、99 名の入学者となりました。

また、学内進学促進を意識し下記の進路イベント等も実施しました。

- ・校内進学展(全学年対象、7 月 5 日実施)・進学,就職相談会(2 年生、7 月 20 日実施)
- ・進路講話(1 年生 11 月 10 日実施、2 年生 6 月 2 日実施)

※昨年度より従来 3 年生のみを対象に行っていた保護者同伴の「進路説明会」を 2 年生に対して実施しており、本年度実施。その結果 2 年生後期に実施した進路希望調査においてもこれまで以上に具体的な進路希望の把握につなげることができました。

<調理師専科>

昨年度募集は初の定員充足(40 名入学)を達成できましたが、今年度については 18 歳人口の減少や高校の就職向上の影響など様々な要因により、定員充足未達となりました。次年度については広報体制を見直し、より効率のより募集活動を行いオープンキャンパスの動員数増をするとともに歩留まりを上げ、定員充足を目指していきたいと思います。

<製菓製パン本科>

昨年度は定員充足を達成いたしましたが、調理師専科同様に定員充足未達となりました。

特に製菓については周辺同分野他校も募集に苦しんでいる状況となります。

次年度については、HP や SNS の更なる活用を行い、オープンキャンパスの集客向上および歩留まり向上を行い、再び定員充足を目指していきたいと思います。

③入学前教育の計画および取組報告

<調理師専科>

今年度の入学前教育は、昨年同様に第 1 回は西洋料理実習、第 2 回は中国料理実習を行い、デモンストレーションを含めた全工程を体験することで入学後の実習授業をイメージさせて興味関心や期待感を膨らませました。

<製菓製パン本科>

全 2 回を計画し、第 1 回ではオープンキャンパスよりも実際の授業に近づけた形式で実施し、第 2 回は下準備から行うことで実際の学習準備へとつながるものとして実施できました。入学予定者同士の交流により入学に対する不安の解消、入学後のモチベーション向上にも繋がりました。

(4) 各種認定（指定）状況について

○高等教育の修学支援制度 ※認定を受けている学校（学科）のみ記載

《支援状況》（下記に学科別で詳細を明記）				
【入学金】				
調理師専科	: I区（満額）	1名、II区（2/3）	0名、III区（1/3）	1名
製菓製パン本科	: I区（満額）	0名、II区（2/3）	1名、III区（1/3）	0名
合計		1名	1名	1名
【前期学費】				
調理師専科	: I区（満額）	9名、II区（2/3）	1名、III区（1/3）	1名
製菓製パン本科	: I区（満額）	17名、II区（2/3）	3名、III区（1/3）	3名
合計		26名	4名	4名
【後期学費】				
調理師専科	: I区（満額）	7名、II区（2/3）	5名、III区（1/3）	0名
製菓製パン本科	: I区（満額）	17名、II区（2/3）	3名、III区（1/3）	2名
合計		24名	8名	2名

○専門実践教育訓練給付金制度 ※認定を受けている学校（学科）のみ記載

《指定年度・利用状況》（下記に学科別で詳細を明記）
製菓製パン本科【指定年度：令和4年4月より】 ※令和5年度は利用者なし
調理師専科【指定年度：令和5年4月より】 ※令和5年度 1名利用

2. 目標達成計画及び重点課題の達成状況

(1) 数値目標結果

<総合学科>

生徒募集活動について、出願者数は133名で昨年度比15名のプラス、入学予定者数も99名となり、昨年度同様に定員を充足することができました。総合学科としての4月での在籍者数も今年度の255名から令和6年度に向けては272名へと大きく増加し、中学校および中学生にも一定の評価を頂いている状況と言えます。

<調理師専科>

学生募集活動については、受験者目標数値未達となり、定員充足にはいたりませんでした。

製菓衛生師試験については、38名中35名（合格率92.1%）合格となりました。

<製菓製パン本科>

学生募集活動については、進学対象年度生オープンキャンパスの動員を昨年より大きく下回り、受験者数も厳しい状況となりました。

製菓衛生師試験については、68名中68名（合格率100%）合格となりました。

3. 教育活動の主たる取り組み

<高等課程>

(1) 教育課程

①カリキュラムの編成

高等課程総合学科として基礎学力の定着を主眼とした「一般科目(1年17単位、2年13単位、3年6単位)」と将来の進路目標の発見と実現、総合的な生活力の向上を目指した「専門科目(1年8単位、2年12単位、3年19単位)」、学校生活の充実に資する「特別活動(全学年1単位)」の各学年計26単位、全課程(3年間)78単位を以下の内容で実施する。また令和2年度から2年次以降、生活創造実践(調理製菓・ファッション)、社会貢献実践(保育・医療福祉)の2科目の選択科目も設けているが、本年度はさらに高専、高大連携の機会としても位置付け、学園内上級学校や学外の短大、専門学校に授業実施の協力も得て、より深い学びや進路探求の場として活用することができた。

【一般教養科目】

国語Ⅰ(1年2単位)、日本史A(1年2単位)、世界史A(2年2単位)、現代社会(3年2単位)
産業社会と人間(1年1単位)、数学基礎(1年2単位、2年1単位)、理科基礎(1年2単位)
生物Ⅰ(2年2単位、3年1単位)、体育(1・2年2単位、3年3単位)、保健(1・2年1単位)
美術(2年2単位)、オーラルコミュニケーション(1・2年1単位)、生活美術(1・2年2単位)、
情報A(1年生2単位)

【専門科目】

《総合教養分野》

秘書学(1・2年1単位)、パフォーマンス学(3年1単位)、ビジネスマナー(3年1単位)
人間形成(1年1単位)、自然と生物(1・3年1単位)、生活と経済(1年1単位)
簿記会計(2・3年1単位)、PC表現(2・3年1単位)、生活情報(2年1単位)、
マルチメディア(3年1単位)、生活英語(2年1単位、3年1単位)、時事英語(3年1単位)
教養A(ペン字、1年1単位)、教養B(一般常識、3年1単位)

《ファッション分野》

生活総論(1年1単位)、ファッションデザイン(1年1単位)、ヒューマンデザイン(2年1単位、3年2単位)
リビングデザイン(3年1単位)、生活創造実践(2・3年選択、1単位)

《調理製菓分野》

食文化(2年1単位)、調理製菓(2年2単位)、フードデザイン(3年1単位)
生活創造実践(2・3年選択1単位)

《保育分野》

保育技術(3年2単位)、社会貢献実践(2・3年1単位)

《医療福祉分野》

基礎医学(1年1単位)、基礎看護(2年1単位)、医療事務(3年2単位)、社会福祉(3年1単位)
基礎介護(3年1単位)、社会貢献実践(2・3年1単位)

【特別活動】

特別活動(LHR、全学年1単位)

②教育方法の工夫・開発・改善の取組

(1)年間授業計画の精査と適切な助言

年間授業計画(各科目)の提出後に、計画内容の精査をより綿密に行い、必要に応じて教務担当者、管理職からの助言を積極的に行うことにより教授法の向上に努めた。

(2)教員間授業見学の実施

令和3年度より教員間の授業見学奨励期間を年に数回設け、本年度も計画に盛り込んだが定期的かつ体系的に実施することができなかった。新任教員を中心に管理職による授業視察、その後の助言による改善の指導は行ったが、全教員を対象とした相互の授業見学やそれをもとにした意見交換などの場を設けることはできなかった。

(3)研究授業の実施

対象教員(無作為抽出)が他の教員を生徒・学生に見立てて模擬授業を実施することを予定していたが、実施には至らなかった。次年度新入生からの1人1台端末の導入が決定しており、それに対応したデジタル教材などを用いた効果的な授業の実施、検証は始まっているが、個々のレベルに留まっており、先進的取り組みや問題点などの幅広い共有を行うところまで至っていない。次年度に向けては計画的に実施し、導入完成年度までに一定の授業方法の確立を図りたい。

③実習・実技等の取組

以下の多様な実習・実技の実施を通じて、総合教養・専門教養の習得の促進を図った。

【総合教養】

- ・パフォーマンス演習(パフォーマンス学・ビジネスマナー)
- ・秘書学演習(秘書学)・ワープロ演習、表計算演習(PC表現、生活情報、マルチメディア)
- ・ペン字演習(教養A) ・フラワーアレンジメント(植物)

【専門教養】

- ・調理製菓実習(フードデザイン・調理製菓・生活創造実践)
- ・ネイルアート演習(生活総論) ・メイク演習(ヒューマンデザイン・生活創造実践)
- ・被服実習(ヒューマンデザイン・リビングデザイン)
- ・介護実習(社会福祉・基礎介護・社会貢献実践) ・保育技術演習(保育技術・社会創造実践)

④キャリア教育への取組

本校で行われている学習活動を効率よくキャリア教育(=実社会を生き抜く力)につなげるため、本校のカリキュラムにあるすべての科目を以下の4分野のいずれかに属するように位置づける取り組みを令和3年度より行っている。

- | | |
|-----------------|----------------|
| a:人間関係形成・社会形成能力 | b:自己理解・自己管理能力 |
| c:課題対応能力 | d:キャリアプランニング能力 |

ただし、カリキュラム全般において上記の各要素をどのようなバランスに亘って配置し、各科目にどの要素を重点として据えるかは確定するに至っていないので、今後はこれまでの作業成果をもとに確定を進め、要素に応じた達成度なども評価、検証していきたい。

[キャリア教育のその他具体的取り組み]

- ・YG適性検査による適性診断(1年生、5月25日実施)
- ・レディネステストによる適性診断(2年生、9月28日実施)

・ 色彩能力検定 3 級(全学年)	受験率 100%	合格率 100%	取得率 100%
	対象者 57 名	受験者 46 名	合格者 11 名
・ 硬筆書写検定 3 級(全学年)	受験率 81%	合格率 24%	取得率 19%
	対象者 24 名	受験者 17 名	合格者 11 名
・ 硬筆書写検定 2 級(2・3 年)	受験率 71%	合格率 65%	取得率 46%
	対象者 7 名	受験者 7 名	合格者 6 名
・ 介護職員初任者研修(全学年)	受験率 100%	合格率 86%	取得率 86%
	対象者 14 名	受講者 14 名	修了者 14 名
	受験率 100%	合格率 100%	取得率 100%

⑥授業評価の実施・評価体制

本年度は前年度まで未実施であった生徒による直接的な授業評価を実施した。質問項目は教員側の授業運営を評価するものと、生徒自らの授業に対する取り組みを自己評価するものに大別されるが、授業の分かりやすさや教員の配慮に関する評価が高かった一方で、生徒の自己評価はやや低い傾向が見られるため、より生徒が意欲を持って取り組める授業の在り方が課題となっていることが見てとれる。現在の評価方法は科目別ではなく、授業全般にわたる設問となっているため、今後は各科目別に評価を実施し、より直接的に各教員が授業内容の改善に反映するとともに、生徒の満足度の向上に寄与するものとしていきたい。

⑦課外活動について

生徒の主體的な活動とそれを通じた人間的成長の場として以下の活動を実施した。

- (1)生徒会活動……各学級から代表者 2～3 名を選出し、生徒会メンバーを形成し、互選によって生徒会長を始めとした役員を決定し活動した。各種委員会や諸行事の取りまとめや学校生活の充実に向けた企画立案、提案を行った。
- (2)委員会活動……学校生活の充実を目的とした諸活動を行った。文化祭実行委員会、体育委員会、環境委員会、図書委員会を設け、各学級からそれぞれに 2～3 名を選び、毎週(本年度は水曜)委員会を開き活動した。
- (3)地域清掃活動…地域貢献を目的に 7 月 20 日(木)、12 月 11 日(月)、12 月 19 日(火)、12 月 21 日(木)、3 月 15 日(金)の 5 回にわたり校地の周辺地域を有志生徒 (20 名程度) と引率教員で清掃した。
- (4)保育園実習……従来は 2,3 年生の希望生徒を対象に保育の学びの延長として実施するが、コロナ禍による中断期間が長かった影響もあり、ボランティア活動として有志を募り実施した。11 月 7 日(火)、学校近隣(中村区亀島)の保育園「キッズタウン」にて 4 名の生徒が参加した。
- (5)ボランティア活動 …地域の施設に協力を願い、都度有志を募り以下の内容で実施した。
 - ①9 月 29 日(金)「生活介護事業つばさ」(名古屋市中村区二ツ橋町)

4 名参加。当該施設のイベントにスタッフとして参加した。障害を持つ利用者の方楽しんでいただく目的でレクリエーションの企画などを披露した。
 - ②12 月 22 日(金)「日蓮宗本覚寺」(名古屋市東区徳川)

7 名参加。日頃から若者の居場所づくりの活動に参画しているご住職の協力でお寺の清掃活動などを通じ、檀家のみなさんとの世代間交流を体験した。

⑧主な教育行事（実施状況）

<総合学科>

共通	新学期オリエンテーション(始業式含む)	4月11日(火)～14日(金)
	校外研修(遠足)	5月2日(火)
	SNS講話	5月11日(木)
	薬物依存講習	5月18日(木)
	前期中間考査	5月22日(月)～25日(木)
	球技大会(東SC)	6月6日(金)
	前期期末考査	6月30日(金)～7月5日(水)
	高等学校スクーリング(第1回・メディア)	7月13日(木)～19日(水)
	夏季資格検定講座	7月24日(月)～8月31日(木)
	避難訓練	9月1日(金)
	芸術鑑賞会	9月13日(水)
	前期末三者懇談会	9月19日(火)～22日(金)
	前期終業式	9月29日(金)
	後期平常授業開始	10月2日(月)
	文化祭(HUMA FES)準備	10月17日(火)～19日(木)
	文化祭(HUMA FES)	10月20日(金)
	体育祭(枇杷島SC)	11月2日(水)
	後期中間考査	11月20日(月)～24日(金)
	高等学校スクーリング(第2回・対面)	12月15日(金)～20日(水)
	学年末考査(1・2年)	2月6日(火)～9日(金)
補習期間(1・2年)	3月7日(木)～11日(月)	
学年末三者懇談会(1・2年)	3月12日(火)～14日(木)	
修了式(1・2年)	3月15日(金)	
1年	新入生事前登校日	4月5日(水)
	入学式	4月10日(月)
	歯科検診	4月18日(火)
	適性検査	5月25日(木)
	進路講話	11月10日(金)
	普通救命講習	実施せず(方針変更による)
2年	歯科検診	4月25日(火)
	2年生進路講話	6月2日(金)
	2年進学・就職相談会	7月20日(木)
	2年生進路説明会	9月15日(金)
	適性検査	9月28日(木)
	修学旅行(沖縄)	2月20日(火)～22日(木)
3年	進路説明会	4月28日(金)
	就職者指導	6月22日(木)
	応募前企業見学	7月20日(木)以降随時

指定校推薦希望者面接(学内進学含む)	9月8日(金)
就職採用選考開始	9月16日(土)以降随時
上級学校出願・入試	10月1日(日)以降随時
卒業考査	1月19日(金)～24日(水)
補習期間	2月20日(火)～22日(木)
卒業証書授与式	3月4日(月)

(2) 学生支援

①学習サポート・相談体制

(1)学習に対しては平素から生徒の個々の目線に合わせた分かりやすい授業の実施を全科目で心がけ実施してきたが、通常の授業で内容の理解が不足している生徒には任意に放課後などの補習授業等を必要に応じて実施した。

(2)年2回(4月中旬～5月上旬、9月上旬～中旬)に各学級で教育相談期間を設け、全生徒を対象に学校生活の状況把握、課題や悩みごとの把握に努めた。またそこで得た情報を前期末に実施した三者懇談会にて保護者と共有し、家庭との連携に役立てた。また、相談室を活用し、日常的な相談業務を頻繁に行い、得た情報は守秘義務には十分配慮したうえで、可能な限り共有するよう努めた。(生徒情報共有会議を月2回ペースほどで実施。)また、教員のみでの関わりでは解決しがたい家庭環境などの問題が顕著に学校生活に影響している場合については、児童相談所や若者総合支援センターとの連携も積極的かつ継続的に行っている。

②退学者、休学者への対応

やむを得ず本校における学校生活の継続が困難になった生徒には、極力次の進路先を確定して学習を継続できるよう指導した。その場合、大橋学園高等学校(一般生)への移行が第一になるが、愛知県在住の生徒が多いため大半は県内のサポート校への異動となっている現状がある。まずは本校における退学率の低減が最優先ではあるが、やむを得ないケースにおける生徒の流出を食い止めるためにも名古屋サテライトの構築の研究は急務と考えている。

③就職支援(就職内定率)

本年度の就職希望者23名に対し原則、新規高卒者として厚労省の諸規定に沿って就職支援を行った。7月1日の新規高卒求人公開と同時に、本校指定求人の即時公開と厚労省運営のWEBページの全国公開求人の閲覧を通じて、希望する企業を生徒主体でピックアップさせ、適性などを考慮して助言指導し、選考希望先を2,3社に絞り応募前見学企業を実施し、その中から応募企業を1社に決定し、9月16日採用選考開始に間に合うよう、応募書類作成の指導、採用選考試験の指導にあたった。その結果23名中19名の生徒が内定を獲得することができ高い内定獲得率をあげることができた。

(3) 学修成果と評価

①就職率向上のための取組

本校では近年、進学希望率が高くなっており本年度は就職希望率 26.4%、進学希望率 73.6% となり、昨年よりやや就職希望率は上昇したが、進学希望率は高止まりの傾向となっている。進学希望率の高止まりの要因はやはり学内進学率にあり、もともと学内進学を想定している新入生の増加、入学後の進路行事によるアピールによる結果であり今後もこの方向性は続くと考えられる。一方で本校が総合学科であるがゆえに、就職希望者は少数といえども希望分野は多岐にわたり、特定企業への継続的な人材の供給は難しく、よって指定求人の確保もしづらい事情がある。そうした中で個々の就職に対する意識の向上を促すため、(1)・⑤にも示している通り、1年生の早い時期から適性検査を実施し、その結果に基づいた相談を進めるとともに、校内での進路講話やガイダンスを複数回行い、ハローワークによるガイダンスなども取り入れることにより、3年進級以降、早い動き出しが行えるよう努めている。

②退学者の低減（退学率、進級率、卒業率）のための取組

退学率 5%以内の実現を目指し、教員の綿密な情報共有、家庭との緊密な連携に重点を置いた生徒指導を展開するよう努めたが、結果としては5月1日時点の在籍者数 255 名に対し 14 名が学籍異動をすることとなり、退学率は 5.49%となった。今後も引き続き退学率の抑制を維持していく上では課題は多い。

中学在籍時に不登校であった生徒の本校における回復が顕著に見受けられることは退学率の抑制の要因とはなっているが、家庭環境が不安定な生徒は年々増えてきており、それを背景とした生徒本人の生活の不安定さや、経済的問題からの学費未納など、本人の本来の意欲とは別の要因で就学の継続を阻む要因は増えてきている。これまで以上に家庭の状況も含めて生徒のコンディションを綿密に把握し、適切な援助、指導を展開していく必要性に迫られている。

<調理師専科>

(1) 教育課程

・カリキュラム編成

5年目に入り、安定的な編成を行っております。今後は検証を進めます。

・教育方法の工夫、開発、改善の取組

今年度の就職分野においても給食希望が多く、専門料理への興味関心を持たせることが困難であった。

・実習、実技等の取組

調理実習・高度調理技術実習・総合調理実習のいずれも年々レベルアップをして頂いております。

・企業連携教育の取組

校外実習については年々登録して頂く企業数が増えてきているため、学生の選択肢も増えていきます。また、学内での企業説明会にも積極的にご参加頂ける企業様があり、就職活動の意識付けになっています。

・キャリア教育への取組

この部分は取り組みが不十分であるため、企業との連携を強化したい。

- ・資格取得に関する指導体制

今年度は、レストランサービス技能士の資格取得に取り組むことが出来ました。本学科では 希望者のみの受験ですが、一次試験（学科）の合格者が6名、二次試験(実技)の合格者が4名という結果になり、4名の学生が3級に合格致しました。

- ・授業評価の実施、評価体制

研究授業の積極的な取り組みが出来ませんでした。年度末に実施する学生へのアンケートの結果を有効に活用し、次年度に活かせる報告を致したい。

- ・職業教育に対する外部関係者からの評価

今年度は校外実習の一部で厳しい評価を頂きました。調理技術の前に基本的な受答え等が不十分な学生、日誌の記録が取れない学生がおり、現場実習に向かう姿勢を問われました。これは学校側の指導不足であったと反省しております。

- ・課外活動について

今年度も活動が出来ませんでした。活動内容の検討もさることながら、時間に余裕がない事が一番の課題です。

- ・主な教育行事

1, 2年生共今年度の学校行事は全て実施する事が出来ると思われれます。また、対外的な教育行事には「愛知県産食材料理コンクール」「愛知県調理師大会」「スペイン料理セミナー」への参加が出来ました。学校行事については、今後もより良い内容になるよう検討致します。

2年	親睦会	5月1日(火) 実施
	校外実習	5月15日(月)～28日(日) 実施
	愛知県産食材料理コンクール 見学会	5月31日(水) 実施
	テーブルマナー講習会(中国料理)	7月31日(火) 実施
	国試対策講座(リカレント)	7月8日(土) 実施
	愛知県調理師大会 見学会	9月18日(月)・19日(火) 実施
	スポーツレクリエーション大会	9月26日(火) 実施
	学校祭	10月20日(金)・21日(土) 実施
	グルメピック (地区予選)	10月下旬 未実施
	卒業作品展	2月10日(土) 実施
	卒業旅行	2月14日(水)・15日(木) 実施
	卒業生を送る会	2月29日(木) 実施
1年	テーブルマナー講習会(中国料理)	7月31日(火) 実施
	愛知県調理師大会 見学会	9月19日(火) 実施
	スポーツレクリエーション大会	9月26日(火) 実施
	東京研修	11月1日(水) 実施
	学校祭	10月20日(金)・21日(土) 実施
	卒業作品展 (サポート)	2月10日(土) 実施
	卒業生を送る会	2月29日(木) 実施

(2) 学生支援

・学習サポート、相談体制

学習サポートについては実技考査の練習会を実施した事で、不合格者の軽減が出来たと思われる。また、相談体制については1年生が担任中心、2年生がチューター対応をする中で、今年度は十分な体制が取れていなかったように思われる。

・退学者、休学者への対応

今年度末、1年生に1名退学者が出ました。日々の声掛けや面談等、気持ちを切らさないよう指導して来ましたが、残念な結果になりました。休学者はいません。

・就職支援（就職内定率）

本学科はチューター制度を取り入れ、教員1名が10名の学生を担当します。

令和5年度の就職内定率は、89.2%となりました。尚、今年度は2名の内定辞退者が出ましたので、次年度はそのような事にならないように指導致します。

(3) 学修成果と評価

・国家試験合格者数、就職率向上のための取組

○国家試験 製菓衛生師試験 合格者/35名 不合格者/3名

○就職率向上 チューター制度による面談等で、個々の方向性を早期決定していく。その上で希望に沿った情報提供を行い、採用試験に臨ませる。
学内の企業説明会もその一環で実施しております。

<製菓製パン本科>

(1) 教育課程

・カリキュラムの編成状況

現行の教育課程施行より5年経過し、学習の習得と効果の向上、社会の求める人材育成を見定め、改めて教育課程を見直す時期にきている。そこで、新たな価値を付加し学生、業界にとって便益となる教育課程を編成し、令和6年度より施行する予定である。

・教育方法の工夫・開発・改善の取組状況

○「保護者感謝会」

本学科特有の学事として、日頃より支え続けている保護者への技術披露と感謝を表現する場として実施。2年生は自らの保護者に対して製品を提供し、保護者への感謝とこれからの決意を込めて取り組む。

社会人として活躍する前に、これまで支えて頂いた保護者を始めご家族の方々に感謝の気持ちを伝える機会として実施。

本学の理念である「確かな技術」を製品に込め、「豊かな人間性」を感謝の気持ち、ありがとうの言葉を伝えられる、人間的に自立した学生の育成を狙いとしている。

・実習・実技等の取組状況

一朝一夕には習得できないということを念頭に「諦めない心」を育む教育に注力した。また、本学科の独自カリキュラムであるスキルアップ実習により、基礎技術の反復練習を行うことができスキルレベルの底上げに成功したといえる。数年前より掲げてきた技術習得目標の達成度は年々向上している。

- ・企業連携教育の取組状況（連携企業数、連携教育内容）

連携企業数：202社

連携教育内容：製菓分野を始めとする専門領域のスキルを活かした教育

- ・キャリア教育への取組状況

- インターンシップ（校外研修実習）

2年次の就職活動に向け、製造現場や販売現場での実習（労働体験）を行うことで、より就職活動への意識を高め、就業先選択のミスマッチを無くすことを目的に実施。

- ・資格取得、検定試験合格等に関する指導体制の実績状況

国家試験対策の強化（教科目授業の充実、リカレント講習、課外授業）

本学科は国家資格である製菓衛生師の在学中取得に有効なカリキュラムを編成しているが、平時より、授業教科目に対する学生の理解度を計るための定期小テストとその結果に応じた反復補習（課外）を徹底することで基礎力養成を支援し、8月には国家試験対策講座を開講して試験対策の強化に努めている。また、愛知県のみならず、他府県実施の試験にも積極的に受験することを勧め、希望者には個別指導も実施することで高い合格率を維持した。

- ・授業評価の実施・評価体制状況

例年、年度末に授業評価を学生に対し無記名で実施。各教員にフィードバックしている。これにより、学習効果を見直し質の高い教育を実現できていると考えられる。

- ・職業教育に対する外部関係者からの評価状況

職業実践専門課程に関わる教育課程編成委員会、及び学校関係者評価委員会を開催し業界団体や経営者、有識者等に相談し助言を得ている。そのような取り組みから、概ね高評価を得ることができている。

今後はより向上的であり汎用性の高い内容にすべく、より深度の深いテーマを掲げ実施する予定である。

- ・課外活動への取組状況

- 中部洋菓子技術コンテスト大会

有志学生を対象に、東海三県の専門学生が競う洋菓子技術コンテストに出場した。技術の研鑽には練習の積み重ねが重要であり、また鍛錬による精神力の向上にも寄与する。それによる離職率の低減にもつながっており、良い連鎖へとつながっている。

- ・主な教育行事

<製菓製パン本科>

1年	新入生親睦研修	4月28日（金）
	学校祭	10月18日（水）～21日（土）
	東京研修旅行	10月30日（月）～31日（火）
	クリスマスケーキコンテスト	12月15日（金）
2年	校外研修実習	4月12日（水）～25日（火）
	店舗販売実習	5月20日（土）、6月3日（土）
	製菓衛生師試験対策講座	8月7日（月）
	学校祭	10月18日（水）～21日（土）

	保護者感謝会	2月16日(土)
	卒業旅行	2月20日(火)～21日(水)

(2) 学生支援

学習サポート・相談体制状況

担任制の他、クラスに対し実習助手を配置し学生と教職員との心の距離を近づけるようにしている。このことにより、学習に関する不安や友人関係の相談等、学生が悩みを打ち明けやすい環境となっている。

退学者、休学者への対応状況

上記のようにきめ細やかなサポート体制を構築したが、家庭環境の問題や目的意識を持たずに入学するなどにより退学につながった学生が目立った1年であった。在学時の指導や目的意識の構築もさることながら、高等教育進学前の人間の成長や自立にも課題を感じている。時代の潮流の変化により高校までの生活指導にも変化が生じていると推察されるが、自身の心の甘さに打ち勝つことが難しい学生が増えていることは無視できない状況である。

就職支援状況（就職内定率）

学生の進路選択は保護者の意向が反映される要素もあり、特に「就業先」は、学生と保護者との意向が異なるケースが増えてきているため、保護者との「個別」面談、就業先の業界理解を促進し、学生にとってより良い進路決定に繋がるように取り組んでいる。

(3) 学修成果と評価

国家試験合格者数、就職率向上のための取組状況

○製菓衛生師養成学、リカレント教育

製菓衛生師試験対策として学生の習熟度に応じた教育と、試験直前の対策講座の実施、個別指導によるきめ細やかな指導の結果、合格率100%を達成している。

○企業説明会

学生から就職ニーズの高い業態を有す企業の人事担当者による企業説明会を開催した。業界の求める人材を理解するとはもちろんのこと、業態特有のやりがいやベネフィットを理解し、就職活動への意欲向上に寄与した。

○卒業生懇談会

製菓製パン業界での活躍を目指して入学する学生は、「活躍したい業界」は明確でも、「具体的な将来像」を明確にできないまま時間が経過してしまうことも少なくない。本学科は、業界の諸先輩方の話を聞き質問できる機会を積極的に作り将来像の具現化を進めている。また、卒業生によって構成されるユマニテクススイーツ同窓会総会が本校を会場として実施されていることを機に、卒業生たちに様々な質問をできる機会を設けている。学外研修として、一般社団法人愛知県洋菓子協会主催の学生向け研修会への参加、インターンシップを実施することによる就職活動への意識付けなど、卒業生の活躍こそが在校生への見本や目標になるということを重要な点と位置付けている。学生の長期休業期間には、実店舗見学（レポート提出）を課題として設定し、学生同士で話し合い、クラス担任の教員と共有しながら、学生の将来像と目的の具現化に対する促進支援に努めた。

○退学者の低減（退学率、進級率、卒業率）のための取組状況

近年の学生は価値観や志向が多様化しており、画一的な指導では対応が不十分となるため、定期的に、状況に応じて「個別」面談を行い、一人ひとりの個性を伸ばす指導を重視している。

また、家庭環境による退学も増えているのと同時に、専門学校入学にあたり目的を持たずに入学するケースも散見されるようになったため、入学前の教育や説明の重要性が顕著になった。令和6年度では新たな改善策を講じる予定である。

以上